

繪本
曲豆臣
勲功記

六編
九

へ遠13
2209
59



門へ遠 13 特
番 2209
巻 59

繪本豊臣勲功記六編卷之九

目錄

清洲大會勝家謀毆秀吉

屬智舌出危

瀧川一益收軍叅登清洲

屬合意勝家

六編卷之九

再會清洲秀吉摩勝家腰

属 說譬折暴

還途布奇計秀吉入長濱

属 折盛政勇



繪本豊臣勳功記六編卷之九



江戸 八功社徳水刪補

清洲大會勝家謀歐秀吉 属 智舌出危

繪本豊臣勳功記六編卷之九
繪本豊臣勳功記六編卷之九
清洲大會勝家謀歐秀吉 属 智舌出危
江戸 八功社徳水刪補
乃 面 貌 亦 有 別 羽 柴 秀 吉 之 從 來 不 使 之 中 亦 故 這 邊
乃 面 貌 亦 有 別 羽 柴 秀 吉 之 從 來 不 使 之 中 亦 故 這 邊

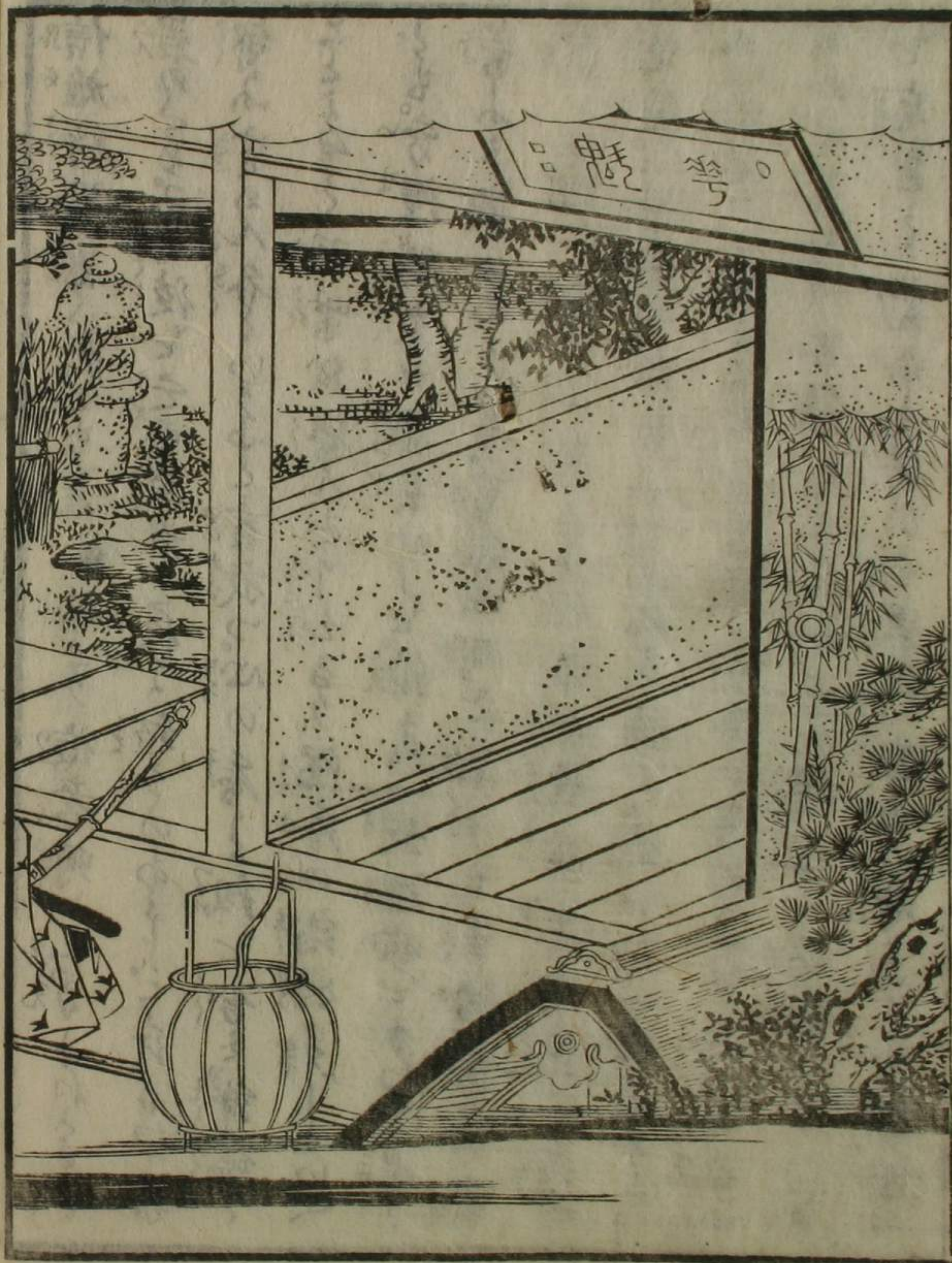
山崎の戦功も。心中おのひふこは成婚も。後て作久間小計兼
 と謀合せむるも名勝家佑と同居せしむ。玄蕃盛政登
 くも重一実と座と進ぐ上中と視旋一。君在りさばとつと
 つとも所後見なり。且、示執事職の律子一も是も紫田
 殿より所發言然るべしと言出る勝家顯頭席と進むるも
 冬、今日浩る集會へ主君薨所いしせしむ。所連技を
 とて織田家の所家督とす。定決奉會多れば新古貴
 賤の論不及を各所存と述らるべし。勝家より一も評
 小属くん。閉口繰退へ却る不忠あるべきぞ。苟も修理進勝家
 執權職の員不度とれば。忠言とめてせしむ。評せん。今般織田
 家所家督の義ハ。信孝卿小相續然るべし。ゆつとも中將

信雄卿ハ二男とれども孝。缺る信孝卿ハ二男とれども亡
 君のとも不遂彼とて是。至孝とれり。起るのあつと。さ成りて家
 督小定めん。各々いふ中と言放つ。心の辱る。叙と合し。評論
 とよむ。羽柴成徳んをいふ。満彦の緒將多し。とい
 とも。守屋勝家が登云せしむ。惟久一個理進とゆつと。樂
 善の軍のあつべき。有保小淵き。庭中も。言治のあつて寂
 然る。時小左の上席とす。羽柴筑前守秀吉。序の進
 緒將小舎敷。態敷不言されり。紫田殿の作たぐ。り
 所領願と閣さ。枝葉と達させむ。小輝。いふ所。不存不
 りやと。専ら成勝家心と喜び。まへ。序の緒將とす。と
 と忘る。荒命と笑ひ。亡君所在世の時より。と。那般の



皇臣記六編卷之九

三



皇臣記六編卷之九

三

高城小のついでとも調漏さる。臣下の批判今更なれり。一言小所總願を閣く。是何といふ不習を名と問掛る。高城小史初君二法師君。先君信長公の所孫あり。信忠卿の所嫡子なり。是所嫡孫兼組され。所家督。達ゆまき。次信孝卿の所事。三男あり。其其順。其其順。と牌る。相あり。是れ。紫田。播磨大。小。怒り。怒。暴。げ。何。と。調。る。初。君。と。と。根。本。と。と。順。と。稱。ま。る。秀。吉。が。公。庭。を。中。も。と。つ。其。意。と。得。せ。斬。駱。し。た。時。萬。多。小。池。味。も。も。只。々。ぬ。幼。君。と。家。督。小。達。人。と。云。る。詞。是。を。平。く。幼。主。を。標。し。権。威。と。極。え。ん。巧。ま。る。が。太。至。り。つ。矯。矯。り。と。是。と。

言放つ。玄蕃。盛。改。此。場。と。と。膝。立。營。一。々。太。刀。小。と。う。け。飢。る。鵬。が。雛。雛。と。現。少。少。像。く。小。眼。と。時。き。荒。茶。守。に。通。進。を。當。時。織。田。家。の。執。権。と。る。紫。田。殿。の。命。ま。る。詞。ハ。亡。君。の。所。意。も。同。然。あり。然。る。に。羽。柴。荒。茶。を。勝。ふ。人。あ。き。が。若。く。不。禮。の。詞。と。出。さ。う。條。條。と。野。心。と。思。察。さ。う。這。般。山。崎。の。吊。軍。小。その。勳。功。の。あ。る。あ。も。せ。し。秀。吉。一。人。の。功。あ。ら。う。信。孝。卿。を。そ。の。將。と。し。甚。上。中。川。を。池。田。織。田。家。の。忠。臣。一。致。し。勝利。と。得。し。ゆ。の。あ。ぞ。あ。る。系。集。若。父。の。怨。敵。あ。ら。ぬ。小。天。と。戴。う。を。然。ば。系。都。の。大。愛。も。秀。吉。一。人。の。警。故。あ。ら。ぬ。紫。田。殿。と。も。あ。ら。ま。あ。ら。せ。お。富。政。お。び。諸。將。も。稟。合。せ。う。山。崎。の。吊。軍。を。ど。う。と。い。う。あ。れ。は。

高城小のついで

秀右一個事謀りき。這序も吾こそ主君の仇と報す
功譽者なり。言ぬをうりに緒將を汲り。公達賢と蔑みする
相顔は。もつろ天の権威と執り。四海を并吞せんとの謀畧
外面の忠義の功居と標相同公は押願の邪と合むあし。
鏡小照る。顯然なり。系来明智先秀の。是中が推挙の
者小つろむや然るも渠が心底は。よろしく知られつるこの
あしん。尙知る。むと攔撥あさむ。統系守が勝味あり。知る
つろむ秀右。是逆賊の張本なり。つづきの道も主君小
對し。不忠の汚名。遁るる。つづきをさへつる。ふ二法師君と。
織田の家督と名を存させ。自身後見とあさん。彼小系
が。無依。継ぎ。明智小増り。一邪曲の政企。遠盛改。つろ處の

恰も大蛇と掘掘なり。無謀な人。その返答。美所。ならんと
大言。小面色。さあぐ。糸の係。額と腕。暴索と文系。と
さりの筋。と張せ。太刀の鞘の根。極過方。後み。搏み
初ん。憤相。連する。清將。は。小汗。振り。片津。と吞。を。勅
たり。秀右。も。身動。せ。呼。罵。し。き。所。答。し。乃。昂
ぬき。身成。も。つ。天。の。事。と。極。めん。あ。ん。思。緩。か。る。令
あり。最初。勝家。の。命。あ。新。古。貴。賤。と。論。せ。し。く。所。存。と
り。あ。せ。と。あり。ろ。ゆ。念。寸。思。と。述。る。る。こ。ろ。な。り。二。法。師。君。と
達。ん。と。り。ま。も。故。敵。正。統。の。衝。白。脈。と。相。續。せ。せ。ま。ら。ん
と。り。あり。全。枝。玉。葉。と。り。あ。も。と。つ。こ。も。正。統。の。君。と。閣。く。和。と
達。る。吾。小。限。る。ぞ。柴。田。敵。と。ち。ま。ま。あ。せ。つ。つ。こ。も。萬。民。の

誅滂と被^レ人。是^レ不^レ倍^レ吾^レが寸^レ思^レと。蘆^ノ子^ノ言^レ述^レた^レる^レの^レ道^ノ
 上^ハ何^ぞ執^レ権^ノの^レ綱^ノ背^キき^レり^レあ^レる^レも^レさ^レぎ^レき^レ。亦^ハ山^崎の^レ一^ノ戦^ノ小^おお^お
 う^ハい^ろろ^ろ乃^ハ帝^一人^ノの^レ功^ノ益^ノ小^まま^まづ^レに^レ不^レ存^レあ^レる^レん^レや。毛^利と
 和^睦つ^レせ^レと^レ僥^倖。亡^君の^レ吊^軍と^一途^ノ不^レ思^レ念^一。万^事と
 擲^チ池^登り^一。澤^ト俱^レ不^レ戴^レ天^ノの^レ怨^ノ故^トた^レれ^レ。片^ト時^トも^レ縁^ノ
 な^リが^レく。會^合する^レ自^レ方^ノの^レと^レめ^テ。殊^レ代^ヲを^レする^レところ^ノ形^ノ
 又^モ亦^モ諸^般と^レ謀^ルり^一こ^トハ^レ神^戸殿^トオ^トめ^レこ^トろ^ト。これ^ハ
 列^彦の^レ丹^羽中^川池^田。高^山。瀧^川の^レ門^ト。是^レ非^軍配^トと^レあ^レる^レ
 づ^きり^一。特^ニ小^周と^レ稱^スる^レ小^造を^レ直^地小^一戦^トと^レあ^レる^レ
 る^レ。素^光秀^ハ尋^常の^レ款^ヲあ^レる^レ。特^ニ小^畿内^ノ在^レ任^ノと^レあ^レる^レ。その
 根^本と^レ堅^固と^レあ^レる^レ。容^易退^治と^レあ^レる^レ。は^レ史^ニ惡^キ本^ハ蘇^ホ一^ノと^レあ^レる^レ。捕^メ

ざ^レれ^レ。か^レあ^レる^レ。と^レ弁^シと^レ用^セる^レ。誓^ヒと^レ存^シと^レ諸^將と^レ併^シ。吊^軍
 不^レ及^ビ。あ^レる^レ。法^ト。獨^ニあ^レる^レ。人^ト。礎^地と^レあ^レる^レ。存^シと^レあ^レる^レ。抗^疑の^レ法^ト。綱^ト
 加^レ之^レ。織^田家^ノの^レ長^家。最^モ負^多く^レ。つ^りと^レあ^レる^レ。逆^賊。明^智。法^ト。速^小
 殊^ニ。幾^セと^レあ^レる^レ。世^ノ中^ノの^レ大^事。不^レ逆^行と^レあ^レる^レ。織^田家^ノの^レ政^事。ハ^レ取^リ
 足^レと^レあ^レる^レ。方^ノに^レ世^ノの^レ嘲^トと^レあ^レる^レ。人^ト。驗^シと^レ亡^君の^レ所^ノ。恥^辱と^レあ^レる^レ。今^ハ
 常^家の^レ所^ノ。武^運。強^ク。登^速。逆^後と^レあ^レる^レ。殊^ニ。滅^セと^レあ^レる^レ。會^ニ。是^レ。故^ノ。敵^ノの^レ所^ノ。威^ト
 勢^{アリ}。且^レ。諸^將の^レ功^ノ。勞^{アリ}。と^レあ^レる^レ。法^ト。勿^ク。と^レあ^レる^レ。秀^吉が^レ。獨^ニ。の^レ。勳^ノ。功^ト。一^ノ
 る^レ。つ^りと^レあ^レる^レ。人^ト。然^ルと^レあ^レる^レ。只^今。依^久。間^敵の^レ。不^レ。害^セと^レあ^レる^レ。法^ト。同^條。逆^來。言^ト
 悉^ク。千^万と^レあ^レる^レ。身^ト。謙^シと^レあ^レる^レ。功^ノ。不^レ。奢^シと^レあ^レる^レ。其^レ。真^ノの^レ。道^理と^レあ^レる^レ。説^レと^レあ^レる^レ。依^久。取^リ
 再^レ。比^レ。鞠^ノ。の^レ。ぎ^ト。綱^ト。も^レあ^レる^レ。用^シと^レあ^レる^レ。諸^將も^レ。羽^柴が^レ。應^答を^レ。膝^ノ。小^お
 紹^トと^レあ^レる^レ。感^服と^レあ^レる^レ。今^ハ。柴^田も^レ。冷^方と^レあ^レる^レ。は^レ。う^とと^レあ^レる^レ。秀^吉が^レ。言^ハ。あ^レる^レ

ところ其理明白あるこの成先集會の一秋酌せん。色は
 染し。中々。諸將も。安途なり。それより
 酒肴を安排す。秀吉便地亭を以て勤め。饗燕を執照し。
 最下。寧と盡し。ける。勝家諸將も。怖れも。なく。と。度不
 至。大胡跪なり。幾盃と。なり。傾け。機會。冷味の
 碟。四。り。り。突と。把揚。酒と酌。其。酬。二。升。も
 あり。思ふ。汁の。満。盃。大口。開。吃。と。賭。息。子。飲。嘔。り。成。傍
 より。秀吉。救。つ。ま。つ。ら。を。挑。と。挿。足。出。せ。勝。家。更。不。言
 とも。謂。た。は。嘲笑。これ。成。扱。足。下。上。方。熱。成。も。勤。務
 風。雅。不。當。弱。あ。れ。も。拙。家。山。谷。不。任。熱。され。斯。の。如。と。挿。し
 梳。と。三。回。擦。一。口。不。接。亦。一。不。囉。碎。き。亦。波。碟。四。子。酒。成。飲。と。

六七番と累次つも其後。その。倒。雷の。後。氣。一。と。

推。斜。一。晒。着。う。秀吉。ま。も。意。小。羅。包。丁。昨。

属。水。候。麩。を。料理。せ。馳。走。ま。と。種。あり。成。傍。

着。比。脚。を。醒。し。脚。心。空。中。一。大。欠。氣。し。諸。將。と。承。の

儀。小。看。卑。し。諸。事。と。禪。ま。と。并。く。是。自。己。が

尊。丈。な。り。他。不。示。し。持。威。と。執。らん。心。中。と。ぞ。見。ぬ。鳴

采。淡。し。き。可。為。あ。ぎ。や。一。遭。飯。脚。畢。り。后。着。比。酒。と

飲。と。救。盃。宴。時。り。を。安。と。整。し。統。守。守。又。驚。少。く。曰。

足。下。が。言。答。られ。如。く。三。法師。君。と。世。續。り。と。織。田。家。の

家。督。然。る。べき。が。後。見。な。る。と。懽。喜。す。遠。任。少。不。維。と。

達。ん。と。鞠。小。秀。吉。言。も。混。生。信。雄。研。と。そ。然。る。と。

豊臣記六巻之九

六



豊民記六巻之九

七

吾小勝家言不角之。然其わ信孝を捨らる。吾彼
 卿を捨らる。信雄卿二男中。信忠卿と河内腹
 織ふ伯父甥の腹もつれ。這卿とて後見とて。其の
 る。神戶殿。二弟とておらる。信雄卿を尊せらる。其
 これ秀吉を思見らる。直く尊意小信とて。今せ
 池田丹羽依とて。諸將卿と一と。筑州の命細路とて。最も
 天下の言強きとて。中柴田も今頼とて。雲河の點慈とて
 つけ。稱りて。群義と華也。今北畠と後見とて。神戶と捨
 らる。思らる。身をわたりて。名枝と懐き。後日の内乱とて。紀
 らん。然其わ河家督三法師君の十又子成らせ。その信雄
 信孝とあ後見と。日本とて。二と割。東西二十三箇國と。

二將子とて。分ち。幼君と安古。中屋とて。當城とて。信雄卿
 と信也。ゆ。岐阜と信孝卿と相定め。彩とて。一と。粟とて。これ。

信孝も遠義も同意なり。縁後とて。一と。各酒徳を
 傳中ける。柴田恭比と旋と。筑前も小相好。新
 河家督も定まる。是下も。响等も。至今と。公事。撫り。
 万事の公務。繁らる。然も。極家。姑のや。誠意の地。不生。信
 一と。信忠の落次。遠と。万事。心よ。信せ。得と。これ。周と
 其下の在。信。長。信。特のや。便利と。一と。存と。信。強。乞
 吾。信。不。既。長。ら。一と。然。其。わ。彼。城。を。修。築。と。一と。是。下。と。言
 信。更。下。の。改。事。と。相。傳。一と。信。其。わ。難。題。と。言。後。多。信。柴。田。と
 信。中。是。一と。筑。前。も。言。返。答。の。有。り。信。其。わ。縁。後。と。一と。信。

豊臣評六編卷之九

八

せしめ。米田徳善院。長谷川丹波守士と云。近江
 の内母て三十万斛と厨料とを。北島中将佐雄輔をこれが
 後見傳代して。尾州清洲に在城なり。尾張伊賀伊勢
 近江の内合せし。願知百万石なり。同下。後見神戶侍
 信孝卿ハ濃州改阜不在城して。當國一季又十萬石と云
 願より。羽柴秀吉が新地不願ハ丹州六郡二十八万石なり。
 柴田勝家が新願ハ江呂長濱又万石。池田父子ハ大坂尾
 崎長庫の二城十二万石。丹羽長秀ハ若州あり。比小。江州の
 内志賀高橋の二郡あり。堀秀政ハ江州依和山。濑川一益
 一又万石。津本頼隆三万石。中川。三山。瀨川。飯。杉。河。の地
 小して又万石づ。又又筒井順美も。駿馬金帛と賜る

和呂一國小安途なり。斯の如く不配願定り。緒將各生功
 願也。歎の眉と開れり。事定まり。標悦之とて。勝家
 及び大。益。紙。把。り。二。之。益。を。願。早。り。筑。前。守。小。う。ち。留。ひ。
 流。る。は。後。小。逆。び。も。早。竟。天。下。の。為。と。お。も。ひ。種。々。粟。糞
 づ。る。なり。今。ハ。送。小。隔。心。も。カ。一。水。魚。の。義。盟。成。結。む。ん。と
 思。へ。ば。玄。米。華。め。て。這。邊。成。定。下。不。獻。し。ゆ。ま。べ。し。と。他
 事。で。毒。意。の。累。添。く。も。彼。大。根。を。秀。吉。が。養。へ。望。出。を。秀。吉
 願。ま。る。氣。多。る。なり。恭。し。く。これ。紙。う。け。只。贈。氣。し。嘔。々。れ。ば
 勝。家。怒。う。け。斯。ハ。際。成。り。決。て。も。の。律。子。三。杯。思。て。蒲。玄
 あ。れ。を。看。せ。玉。と。強。浮。ま。る。小。筑。前。守。を。り。く。圍。り。一。面。相
 し。て。敵。く。存。知。る。る。と。く。波。量。ある。生。災。の。乃。辭。す。れ。ば。

豊臣記六編卷之六

十一

勿く殺さるるおりのひもよき。只願ふ免せられしと辞まると。
 去蕃蕃改實と立出。序隣の的相推把す。秀吉が傍へ
 道勝行。執事の細川背らるる。を禮のまう隔心ありとおろく
 たり。然ちくハ云々承られし。先乃帝が酌せんと強動する
 その心中。輝輝せきせき衆魁せんと。巧ゆる榎小満庵の個々
 亦も同と服成觀合せき。最氣の累氣小竈あり。秀吉
 屢身と又き乃帝原身沙量るれども。格別の益あられん。
 身を扱ふ頂戴せんと。至醜く又六益飲盡するその相ハ。
 杜甫が吟せし。吹仙秋小長縣の百川と吸せと賦せしも。
 斯やあんと感驚せり。地をこれ成勝平り。柴田が降く
 醜蓋しける。性得秀右大酒まれども。性戒深く今日進も。

沙量ありとい風しとわ。柴田もく小飲むれり。斯を
 大吹まといとも。又并まきとも。擲く。律を。結然と
 秀吉が。其日の宴ハ。霞の蓋く。各帰陣せられり。
 瀧川一益收軍。泰登清洲。馬合對勝家。
 漢士小劉備が。着と落ま。雷雲とて威を匿く。曹操と
 食し。わさる。好。日本小豊公が。益成把り。勝家が。勇と勝
 畫して。諸將小。其威を示さる。斯のめき大軍。待り感
 服さ。らんや。遠酒越ハ。六月廿日の。將ありけり。其翌日。備
 川元通將監一益。清洲の。城下小。泰登せり。一益。這般。後
 能小。來着せし。其所。謂を。鞠ぬる。過つ。日月。武田。征成
 おろく。后。故右大臣の。台命より。關東の。管領。

上州麻栲の城小僧し。相召小田原の城。北條と合戦す。然るに當六月七日。上方の飛脚到來し。信長公所又子。麩所の事を報し。一益惣派し。啜びつ。遂に光秀と退治せん。北條との合戦とす。捨上洛せん。上原の諸將を集め。系於の大變と釋ゆせ。信士の心腹と問する。諸士食一益が智勇小賊。門人壞と出され。二心なれし。一益大不感脱せられ。上原の唯信とす。れども。小條氏政関東と横切。澁川が身小執。いそ双の大敵なれ。餘伎一戦あり。武威と隣國。現し。后上洛す。遠急と続ら。城後攻小當向。猶子澁川儀。亦も。方洲とゆ。呼喚し。

同月十日北條攻の軍勢。澁川儀。小集會。關士。内後大和。由良任濃。上田安福。成田下徳吉。春尾新三郎。小橋上徳久。金野野法。金野野法。上杉左衛門尉。其勢合。一万余騎。澁川本。約の精兵も。一万余騎と率。聖之日の申。小入。頃和田の里。小總陣。北條氏政。これ成。大軍と引率し。小田原の城と進。武州武甲山。出張せ。先陣。尾張守大道。張河。芳賀伊賀守。飯氏政。先達。坂東。二里と痛。武。小條安房守。三千人と引率。倉加野門。澁川。合戦。澁川の先陣。篠原。津田。澁川。堀田。



武田、田原真守、牧野傳孫、日置久兵衛、後、繪と合せ、
 戦ひ、北條安房守が勢と、勢、小退捲り、乳飲揚、
 武田山の先陣、松田芳賀、大道守、後、二千餘人と、金井丑不
 伏重、二千餘人、水、澁川勢、小向、合戦、澁川勢、前進、
 で相戦、北條方の伏兵、起り、四方より攻成り、小、澁川勢、
 逆不利と、失ひ、津田、篠屋、後、亦死走、一益、自身、敵、小、當り、終
 日、批戦、小、つ、も、涯限、多り、且、東西、別、となり、澁川、小、金
 加野の、流、小、投り、其、後、國士、後、小、別、陣、と、報、今日、の、合戦、各、の
 忠奮、乃、所、小、お、わ、り、大、感、限、り、あ、ま、り、と、ま、り、上、洛、せ、り、后、の
 倉、小、條、二、澤、屬、し、居、城、不、安、途、の、ま、り、武、田、の、獲、る、これ
 まで、多、り、と、各、人、災、と、返、さ、り、終、夜、酒、麴、を、作、り、猿、樂、と

毎、日、つ、も、一、益、と、ご、う、報、擧、げ、り、驚、く、と、搦、鳴、し、武、勇、と
 衆、小、見、し、これ、は、國、士、奉、り、或、ハ、感、ト、或、ハ、怒、ビ、使、宜、小、最
 の、更、る、ま、を、樂、敵、配、し、十二、日、の、曉、多、儀、待、り、國、士、お、の、一、益
 が、上、洛、の、發、旅、と、高、崎、を、見、送、り、つ、別、陣、と、乞、ふ、り、別、且
 たり、澁、川、其、勢、八、千、餘、騎、確、氷、と、戦、り、仲、伝、道、と、絶、上、り
 十八、日、の、舊、陣、あり、勢、州、桑、名、小、名、陣、し、光、秀、滅、亡、と
 駭、小、り、這、城、多、く、緒、軍、の、疲、勞、を、補、せ、り、廿、一、日、清、洲、の
 浪、日、森、著、せ、り、并、も、這、澁、川、一、益、ハ、既、小、関、東、の、管、領、と
 しく、武、田、の、強、敵、ハ、攻、滅、し、北、條、と、對、戦、せ、り、と、集、り、
 劣、る、と、と、あ、ま、り、の、ま、り、神、戸、信、孝、の、勇、あ、れ、は、多、く、武、小
 慢、ト、勇、小、誇、り、柴、田、勝、家、と、心、と、一、お、を、同、氣、相、お、お、先

豊臣記六編卷之九

廿五

同病相憐むの道理。柴田修理進勝家ハ。龍川が志を
 せし。依丈小新ひ。良劭将とをす。ありしれ。柴と謀議を。彈合
 流守と代滅さ。と。張館小招き。對面あり。す外
 亡君の悔悲と。速く送ふ。哭涙。咽喉。稍あり。修理進
 勢。張。潜り。軍。けり。中。這。殺。主。家。の。所。家。督。定。有。る
 小。就。如。く。羽。柴。秀。右。亡。君。右。肩。殿。所。在。世。より。討
 俣。利。は。小。毒。走。り。お。り。ひ。の。あ。り。に。出。頭。か。怪。く。も。う。く
 運。小。稱。ひ。中。國。の。事。と。成。果。く。速。く。も。山。崎。の。一。戦。小。明
 智。と。滅。し。其。勳。功。の。行。る。小。着。く。神。戶。殿。と。震。如。し
 自。己。諸。將。小。頭。領。と。て。這。殺。の。變。小。臨。く。槍。と。奪。る。ん
 相。露。を。れ。り。吾。苟。も。織。田。家。の。系。老。諸。將。小。冠。る。身

中一のね。看るに。思ひ。ぞ。渠。が。邪。行。と。制。せ。んと。す。と。いつ。とも
 山崎の功。わ。然。と。今。秀。吉。と。名。名。小。代。也。偏。執。難。如。の
 中。小。聆。え。思。も。却。り。不。忠。と。あ。ん。く。皇。下。ハ。系。來。乃。所。と
 同。小。穢。る。東。國。の。管。領。有。り。此。の。ま。り。と。信。孝。卿。小。男
 あり。能。令。一。命。と。擲。る。も。織。田。家。再。興。あ。ん。ん。い。あ。は。ん。皇。下
 へ。ま。ま。精。し。き。緯。と。知。ら。る。中。小。れ。あ。れ。とも。秀。吉。が。放。恣。云
 張。道。斷。の。奉。止。多。り。山。崎。小。事。と。遂。て。よう。禁。庭。小。追。從
 一。公。卿。小。就。使。系。都。の。改。事。と。慢。中。明。智。少。議。堂。と。幽。命
 あり。自。己。が。仁。徳。と。衆。小。示。し。て。自。方。小。引。入。づ。此。方。優。有。る
 一。何。緯。小。し。信。孝。卿。小。受。命。と。わ。く。一。已。と。し。て。改。事。と
 する。ハ。天。下。と。握。ら。ん。渠。が。結構。濫。小。照。く。皓。く。り。這。と。ゆ。て

豊臣記六編卷之九

〇一七

うく思慮せしむるは虎角蛇足の禪と。熟聆く澁川一益
 いう事も羽柴が状その原より彌懐ある不。別く入路の
 所仍ハ甚必く紅道あり。渠播州の國守とありしも會
 亡君の恩澤あつむや。胞生で立身せし成志也。這遭系
 都の變ふ乗トて。國家と奪取らん。明智小増する
 惡逆なり。是ハハ勿論乃后こても。關東管領の任られ。功
 功居の列に加はり在り。禪合せし惡徒と除き。君家成
 守立まつせん。比他是下も吾も弟合戦の時ふ合つて
 臆怯と去るやうに聆え。殘念此もあつてはそれ
 のゝあつて。畿國の諸侯も慈小澁川を忠義を志す。
 多くハ羽柴小荷擔せられ。秀吉が大軍の政全ふおめて

ハ光秀小増と十倍あり。慈まれば急は事と成らん。
 恐らくハ成就一がさうん。是下と心と一ゆり。續く事
 を累策秀吉が惡事の露もつと待り。謀成し其
 づきを。計紙ハ密あることとよりそむ。かあつて口外
 其小形と。遠謀深密も謀合せ。連小心中致合す。其日
 ハ別く旅館小塚りぬ。
 再會清洲秀吉摩勝家腰屬説誓折暴
 子陵光武と同衾。是と腹小加り。心ハ善惡の境と
 出く。驗小機と忘るの器なり。其と石扉。釣臺の匂小。
 之公も。梅つと。澁川と。潜る出塵の人と。あつて。腰腰と
 して朋友小按撫せ。威と示えん。論あつて。慈徳小織田家

豊臣記六編卷之九

一七

の家督も相定り。諸將の褒賞國郡配分悉く海軍も
 諸人初々安途なり。各持國へ帰らんと旅振をふしうける。
 義小佐く成改ハ。京都も氣着き。後病腦疎不痛く發
 して。醫務を加へ休息せしめ。これより集會も國に漸く
 近來奉會し。柴田亦田倫と彈交中。北國の事も心不置
 西亡君の廟系と拜し。六月、漸別拜し。北陸道も赴きける。
 然るに柴田勝家ハ何れも居度と見せし。秀吉と殿減さん
 と再び城中集會す。家督首尾よく定り。詔びたり
 是酒宴と借中。心巧のあきとふれ。勝家頭不酒と飲佐將
 小も浮着し。秋剛吉と監醫後藉し。幕ふつれ。醍醐
 せしれ。胸勝家羽業ふら。徳ひ。華め。向も異なるものあり

列夜の法度も多き。中不。定下の如く出頭して。度する者ハ
 古今希有なり。然れども。家の系累と終る。むづれの子孫何
 氏ぞと鞠小。秀吉うち笑ひ。いれ。人と生る。奇ハ先程も
 て。あま。う。然れども。吾ハ。民の児。子。尾州中村の
 養むれ。系累とて。も。存。ト。の。さ。バ。氏。ハ。首。任。長。公。子。り。
 賜られ。る。平。氏。り。と。鞠。小。然。る。も。善。し。り。務。水。大。ひ。り。
 う。ち。笑。ひ。然。れ。も。い。ん。羽。柴。敏。ハ。其。叔。所。馬。の。權。る。け。り。か。
 次。弟。も。不。立。身。せ。れ。今。ハ。播。磨。の。國。と。り。中。國。の。探。頭
 たり。氣。も。用。ゆ。れ。ハ。虎。の。威。と。執。り。虎。も。用。ひ。ざ。れ。ハ。氣。小。き。
 と。定。不。戦。國。と。ハ。い。ひ。ま。が。り。匹。交。不。許。も。國。と。り。城。も
 國。司。の。人。と。し。も。身。の。安。所。を。以。軍。も。あ。ん。最。甘。む。し。事

豊臣記六卷之九

十六



豊臣記六編卷之九



豊臣記六編卷之九

其

かり。と大口開く。胡屋ひ赤西之丞連飲し。肩揺動し。秀吉と食意不登と青行呼世頃。心怪。酒氣の濃くや肩のつら。特は痛く覚ゆるなり。一昔日流忍。右友右。肩中てあし。一程。時。接摩を情し。巧者の接方。今。又。其。足下の接摩を好し。これ。播磨の國。とい。みせん。今。大身の秀吉。それ。とい。せん。も。氣の毒。あり。依久間。へ。い。つ。あ。の。や。ん。と。緯の緒。糸。一。息。れ。ん。依久。寄。改身。病。き。暴。く。流。着。く。う。ち。驚。ひ。柴田。殿。より。足。下。に。接。摩。と。承。り。あり。收。く。接。ぎ。進。せ。れ。よ。と。い。ふ。満。度。の。斬。却。り。糸。の。希。け。う。ぬ。柴田。が。無。礼。事。を。そ。後。子。起。る。ら。と。肝。を。冷。し。く。沈。息。を。秀吉。を。ま。り。も。怒。り。る。相。あ。り。乃。肩。も。久。く。

又會といふ。其。滑。疑。く。い。遠。く。と。れ。ん。大。膳。の。命。と。能。く。も。名。れ。り。去。来。や。接。接。し。の。い。せん。と。些。も。氣。を。失。は。ず。勝。家。が。背。に。坐。り。肩。と。把。り。擡。り。と。力。を。併。ら。せ。接。り。る。も。丹。羽。沈。田。も。これ。代。看。て。只。憫。悲。と。言。も。な。く。言。願。く。存。り。し。か。柴田。依久。間。の。案。上。想。遠。し。方。僕。の。答。答。や。も。た。く。時。移。る。ま。を。推。し。せ。ら。勝。家。の。命。も。會。接。せ。ん。又。心。を。接。收。し。て。お。お。め。れ。畢。究。の。緯。小。腹。腹。と。も。接。り。よ。や。と。心。を。接。り。と。心。と。接。れ。く。腕。枕。を。然。も。秀吉。更。り。つ。る。ま。だ。懸。より。と。體。あ。し。ひ。を。深。節。懸。の。ま。り。踏。組。改。又。心。を。残。る。か。と。あ。り。折。を。柴田。も。今。い。做。べき。や。う。と。く。朝。り。の。心。後。沈。將。の。あ。り。く。面。目。あ。り。や。思。ひ。え。ん。慮。服。し。て。

豊臣日記二編卷之六

在りしを。筑前守に命じて止め奉りて。佐久間
 玄蕃に命じて。後藤長綱を討たせんと。其意を
 對ひて。是の如く。今の大坂の戦。其意を
 勝家の所望もせし。當時播磨一國を領し。中
 國の探頭
 とて。這般の情の台紙を。徳大將の任に
 有らざる。人の腹臆と。播磨の人心を。徳大將
 其職を。行ふ是と。播磨の業との。柴田の
 乃辭が。今陪にせし。是の心を。徳大將
 棄せし。なり。それより。今大坂の戦。徳大將
 改む。新軍を。都下の公中。中。初君の
 相傳。最徳を。是の如く。徳大將の。

間。少將の如く。徳大將の。遊。あり。や。承。
 之。秀吉。是。も。徳大將。を。徳大將。
 書。よ。此。言。も。鳥。車。あり。徳大將。
 ん。が。り。小。言。徳大將。は。徳大將。
 併。道。と。呼。後。一。む。ひ。徳大將。
 光。明。を。放。ち。あ。は。是。と。む。徳大將。
 這。曾。飛。大。願。と。紀。一。む。ひ。徳大將。
 賤。手。車。と。擲。せ。ん。一。千。人。は。徳大將。
 自。浴。せ。る。人。の。垢。と。洗。せ。し。む。徳大將。
 員。も。九。百。九。十九。人。は。徳大將。
 ば。や。あ。か。し。と。待。せ。し。む。徳大將。



筑前守
 壁ひ
 説示
 光明
 皇后の
 施浴

投る紙看ねば。癩病を。渾身壞爛。膿血流れて其鼻はと
 鼻へ得堪ん。湯獲りわくする宮女連も。面と鼻へ鼻紙
 掩ふ。近づくことと傷きうし。皇后をさす。厭ひむ。彼
 病人と。芳りむ。静小塘と。院をせむ。病人收斂。こし。声
 と。放ち。皇后小対。少く。重き。新深切。小介抱。ある。決て。もの
 事。腫病の上。の。痲。小。堪。む。と。る。あ。れ。ば。膿。血。紙。吸。少。く
 玉。も。ん。や。と。聆。し。む。され。て。皇后。と。れ。き。く。父。小。辞。む。む。ん。ん。
 平。の。終。小。腫。病。の。膿。血。と。吸。せ。む。つ。か。呼。嬉。や。と。獲。と。る。
 衣。と。被。ぎ。て。去。ら。ん。と。する。時。皇后。病人。の。袖。と。被。む。ひ。これ
 某。方。が。膿。血。と。吸。ひ。し。と。他。小。給。り。於。と。宣。え。ま。さ。と。彼。病人
 皇后。と。顧。み。阿。闍。佛。の。膿。血。と。吸。し。と。他。小。給。り。あ。ら。と。皇后

声と。一。小。光明。結。し。と。て。紫。磨。黄。金。の。佛。身。と。現。し。し。ひ。
 光。雲。小。駕。し。て。飛。去。む。ひ。し。と。今。彩。雲。良。小。回。瀆。あ。る。衆。徒。人。の
 衆。と。さ。さ。る。り。天。皇。后。の。所。身。ま。る。浩。る。修行。の。す。ま。り。その。故
 其。小。場。も。梅。唐。の。子。療。治。加。之。柴。田。殿。ハ。先。君。の。妹。尊。親。後
 威。の。最。者。な。れ。は。是。之。君。も。同。然。り。これ。小。購。より。三。身。し。て
 統。兼。ぶ。小。事。ること。全。く。自。分。の。功。あり。を。君。國。の。あ。ん。と。さ。る。を
 ね。ば。君。子。同。ト。人。の。事。代。何。と。て。祥。ま。り。死。可。謂。あ。ん。や。按。唐
 へ。あ。ら。り。足。院。中。も。貴。く。這。身。の。秘。傳。小。あ。ら。り。自。然。と。大。持
 と。懐。く。と。そ。所。家。督。系。る。死。や。し。小。信。家。同。體。和。命。と。て。柴。田
 家。五。興。と。專。小。掛。念。が。忠。臣。な。ん。追。後。種。傳。と。つ。る。名。ハ。
 自。己。が。身。小。做。さ。業。と。し。私。の。利。欲。不。耽。と。謂。ふ。り。柴。田。殿

ハ乃舟と首且あつた朋友なれば。驍小軍とて信州も可成
 せん忠義不変せぬ我心度所見せしめせし導引を斬
 所咎小園りく。若春感つらつりぬと極理とて。統志を
 盛改一云所向もた。赤面して口を度子連りたる法
 達も。唇唇をを感服なり。吾退教ありき。法度これより
 却り柴田依之間と稱す。統志が陰謀は。厚和ると感
 賞す。愈々帰伏の情と生しぬ

還途布奇計秀吉入長濱馬折盛改勇

火ハ其勢猛烈なれば。柴田の水小勝と結する。驗子豊公
 が智水の澤して。柴田依之間が。瘡火と稱す。のそあるは。法度
 も全く帰順する律。智あるは。運るるは。然らず。勝家ハ

心中の旗躍ます。漫り。所時も速く秀吉と。驍挺むハある
 づ。心と苦し。工更なる。時小羽柴秀吉ハ。万端意の
 如く小羽ハ。長濱の城は。何れの條計と構させ。然
 て城と勝家ハ。運とを。深く思慮す。帰國の別様を。若
 るんと。幼君と。神戶小島。暨柴田が。伴へも。東達せり。勝家
 それと。於りも。是。究竟の事なり。其。密に依久間と
 招き。借も。運と。秀吉面。さ。條れと。勝家ハ。心。揺さ
 これ。通れ。然。柴奴と。法。勝家ハ。心。揺さ
 大。明。日。秀吉。長濱。發。先。刻。報。知。の。使。士。を
 載。汝。精。兵。と。浪。今。有。の。不。弛。秀。吉。が。帰。途
 埋。伏。有。を。謂。せ。報。報。令。從。者。ハ。通。せ。秀。吉。と

不敵扱バ勝家心と安んぶべきを。かゝるべく、倣扱ぶべき。
 急げいそげと指揮せられ。強劇不場へぬ玄蕃盛政。承所なる
 とつ小僧不直也。不旅不馳行つ。羽柴が読後と痛ひ。不
 旅發まぶき其人員へ。二百人不足され。盛政大不驍喜び。
 茲バ吾侮ハ羽柴が勢不倍し。隠伏するものと。精名擇出せ
 六百餘人。廿二日の善き。當天清海と羽不登起て。兵使路
 と當し。馳向ふ。備不羽柴秀吉へ。参旅の準備せられ。如し。
 丹羽長秀。参られ。れ。兩地對面して。茶後。の執事。彈文
 在る。に。清不他人のなき。長秀。秀吉不。驚ひ。重され
 けり。這遺勝家が。動靜と察す。不。切。織田家を。真。
 まぶき。心。底。不。あ。む。只。管。娘。偏。執。不。強。張。自。己。

威勢と恣め。兵とを情を。罪多しんと。專ら。害心を。會し。
 般。降。城。し。不。途。中。も。不。意。基。を。し。不。乃。前。も。
 備不長濱。を。送り。ま。わ。せん。と。最。懇。切。不。听。え。けれ。秀。吉。
 丹羽が。不。松。今。不。不。乃。河。原。切。の。廿。二。日。の。廿。二。日。
 然。し。か。ら。乃。前。も。豫。を。屬。に。れ。途。中。の。危。難。を。
 通。す。唯。備。は。屬。に。れ。是。不。左。不。右。此。地。不。至。て。初。君。と
 守。獲。し。不。と。遂。不。別。辞。し。別。に。し。然。し。小。當。
 不。乃。羽。柴。秀。吉。之。百。餘。人。實。の。初。刻。不。清。洲。を。發。出。
 長。濱。當。て。急。ぐ。れ。備。不。伏。久。間。盛。政。へ。清。洲。と。去。こと
 二。里。を。り。稻。葉。と。萩。原。の。據。守。る。據。き。山。の。あり。け。が。那。
 と。不。理。伏。せ。る。不。究。竟。の。不。あり。と。近。づ。き。看。る。不。怪。し。

豊田言六終巻之十

三十一



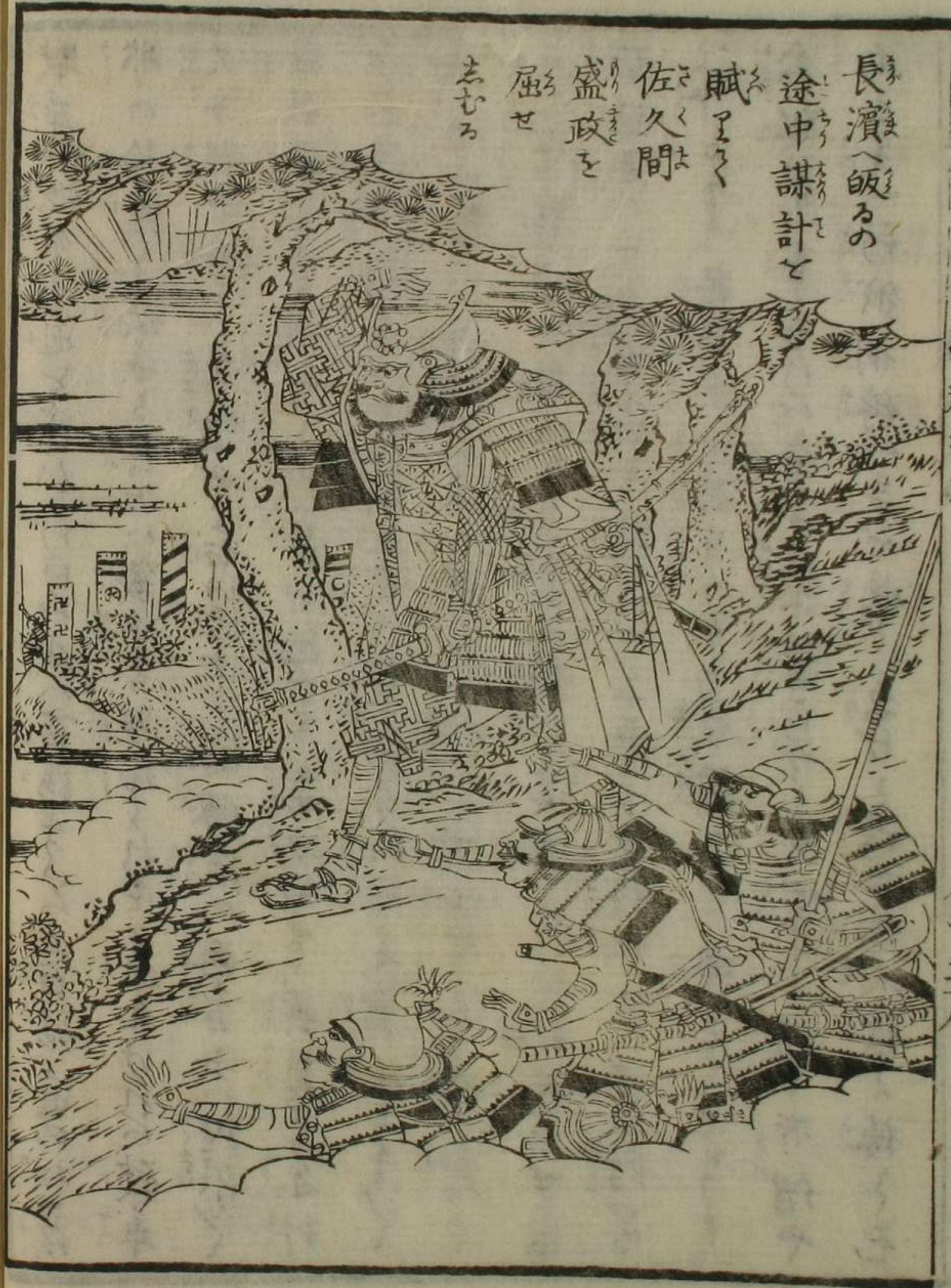
惟ふ隙の勢も細ねど百騎ももたや休せり。雲霧や
 強しと闘鬪てありそら。雷煙られし坊より果を
 進み埋伏せしと二三町なり馳行なす。吁不審や又
 這地中も又十騎をり伏せり。駒のやゆと撓りひる
 先伏せし勢の多し。若士一人走り出吾儕が隊
 伏せし何輩もろく魑魅真しと囁あり。儂氣の
 怒り一喝叫ぶ。暗号せしや。空方不峰敵沖とも
 天と焦しと聞きたり。盛改これと心と折られ。怪
 這所も馳せ。程行なす。彼れも。又十騎百歩の
 埋伏せしと連綿とれ。玄蕃太心小怪し。意懸
 車と呼ぶ。大垣金井の香も。窺れと口属し。意好

駛率に次取小道と窺ひひけ。或は百騎も二
 那の捨陽も伏せし若士に幾千と涯知れ。着
 大不肝と冷し。走返りて告げしや。這塚道の
 伏兵断るところなり。何をと極も着決か。其
 りも。吁希し。伏兵や。騒ぎも。怪神走。盛改
 不審不審。維何ありと断る。後く埋伏せし。是
 秀右。帰國と誓んと示す。懐起する軍あり。伏
 想遠あり。遮莫我も示し。つとふ。埋伏して事
 八隊も。然量の伏兵なりとも。長溪せ。獲
 念起する事なれ。又不審ら。空しく。所溜
 あり。先へ。絨相待し。快く。急げと。六百餘人。搦



長濱へ向ふ

長濱へ向ふ



長濱へ向ふの
途中謀計と
賦
佐久間
盛政を
屈せ
志むる

長濱へ向ふ

命左の南
高舟の南
つる南宮
山まで大坂
と中
幸正の
中
とあれど

馳けり。わけの行を。伏兵増す。暗号のあふ。方僅ありや。巻記
づき。久延る。予得。極威の盛改。斬て。更不進。得を遠
遊。小夜も。や。曉。され。儼。と。ろ。ろ。小懐。ひ。ろ。ろ。や。斬。ま。さ。多。く
の。勢。と。伏。兵。羽。柴。と。撃。んと。計。さ。る。その。西。國。方。あ。り。毛利。の。こ
家。う。それ。ろ。ろ。あ。く。い。は。國。小。渡。江。長。吾。我。親。の。外。あ。い。あ。く。下。
り。多。這。自。勢。と。他。務。して。槍。圍。る。あ。り。柴。田。の。社。あり。知。ぞ。す。こ
し。這。と。退。き。流。着。ち。が。通。ら。ん。時。彼。伏。兵。が。所。地。と。見。て。其。と
方。術。と。施。ま。す。一。秀。吉。縱。令。天。狗。あ。も。せ。し。斯。大。軍。の。埋伏。し。七
減。んと。計。果。せ。る。あ。り。づ。ろ。せ。う。適。多。道。あ。ら。ん。や。他。の。跡。と。悟。て
羽。柴。と。襲。む。遠。上。も。ろ。た。僥。倖。あり。去。来。や。と。自。勢。不。指。揮。を
し。て。國。々。急。近。く。来。り。し。と。十。町。を。ろ。り。退。返。し。て。中。山。と。い。ふ。嶺

小登り。遠小。潜。して。口。方。と。着。る。小。相。川。府。中。野。上。の。名。も。小。續。く
連。と。し。く。伏。兵。あり。右。も。左。も。這。小。在。て。秀。吉。の。来。る。を。窺
む。や。と。只。管。東。の。方。と。着。獲。り。瞬。も。せ。を。後。覆。り。并。も。清。洲
より。國。々。原。生。で。其。行。程。を。算。じ。六。十二。三。里。も。あ。り。ろ。ろ。伏。兵。依
久。間。の。烈。しく。終。夜。も。馳。け。ろ。由。急。曉。當。天。小。大。堰。の。跡。を。す。ぎ
た。れ。ども。羽。柴。勢。ハ。廿。三。日。の。寅。又。入。る。ろ。ろ。發。足。せ。し。う。は。釜。井。小
着。ろ。その。當。天。ハ。申。の。刻。小。最。近。ろ。これ。小。より。を。依。久。間。勢。
腰。長。糧。も。た。や。喫。盡。し。伸。久。し。く。待。た。な。し。漸。し。て。日。ハ。西
山。と。熱。く。照。し。く。あ。ら。や。山。の。鼻。小。深。ら。んと。さ。る。ろ。ろ。相。川。の
東。より。遠。小。視。ゆる。馬。懐。ハ。平。日。小。着。熱。し。千。生。瓢。子。夕。照
す。ろ。ろ。輝。き。く。薄。く。暮。と。歩。進。来。れ。り。依。久。間。盛。改。これ。を

着々。呼や猿面、遠きでも、よくこそ那量の伏兵と免れて来り
 つつとよむ。這處色の伏兵ハ外地不埒く、最多たれ六道一
 ハを平下秀吉が圍まると見警せよと六百餘人の兵士輩。
 息と殺し〜視るところ不。彼埋伏せし軍勢ハ是秀吉が
 敵あり〜と加藤虎之助、福橋市松、戸桐助、脇坂甚
 内、糟谷助右衛門、平野、控平、石川、兵助、大谷、慶松、小西、孫
 九郎、倭野、孫、美、清とをとり〜。羽柴の勇は悉く自勢
 兵物を跟從へ、路上の警固、重し。冷身、軍勢、重埒、来
 りて、圍み、不埒、する時、其勢、一万二千餘騎、旌旗、鎗、刀、天
 と、蒸して、候し、るどの、さうり、かく、鏡し、〜、を、視、満る。去、蕃、盛
 改、あ、き、う、の、律、不、斬、果、〜、噴、怒、ろ、〜、死、荒、茶、守、よ、く、も、分、捨、あ、〜

けらよと、縁々の針、織も、愈、想、遠し、今、の、施、を、方、例、も、あ、け、れ、
 奈、憐、〜、清、洲、不、埒、帰、り、勝、家、又、斯、と、告、け、ら、み、持、柴、田、も
 桜、の、外、ろ、〜、舌、と、振、り、〜、駭、く、わ、〜、害、心、生、ま、〜、湧、出、〜、
 茶、也、派、毀、損、〜、工、丈、不、胸、と、惱、〜、け、れ

繪本豊臣勳功記六編卷之九 終

